

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
人間の健康と社会・心理的適応		必修	2	2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
今村 亨	教員控室	kango	授業終了後に質問等受付		
授業の目的・概要	健康やストレスには社会・心理的側面が不可分に関わっていることを理解し、自分自身、また将来的に患者・利用者の健康と適応の増進に寄与できるようになることを目的とする。講義およびプレゼンテーションまでの過程を通じて理解を深める。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・デベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	第13回、第14回にて実践することになるプレゼンテーションに向けて、第1回～第12回の内容を十分に理解し、グループ活動に能動的に参加すること。				
教科書	特になし				
参考書	・ユーモア心理学ハンドブック / 著:R・A・マーティン / 北大路書房 ・ストレス・マネジメント入門 自己診断と対処法を学ぶ 第2版 / 著:中野敬子 / 金剛出版				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	社会・心理的不適応が発生する機序とその意味を理解し、習得する	NS(1)			
②	自他共に尊重したコミュニケーションの形式を理解し、日常で実践できる	NS(2)			
③	他者の社会・心理的不適応を適切に把握することができる	NS(3)			
④	他者の社会・心理的不適応に対し、対処法を提示することができる	NS(4)			
⑤	健康と社会・心理的適応を支える関係者/他業種の人々の役割を理解できる	NS(4)			
⑥	健康と社会・心理的適応についての学習・調査・研究を自分なりに進めることができる	NS(5)			
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション/「健康と社会・心理的適応」をどう考えたら良いのか	講義	第13回・第14回のプログラム発表までの構想を考える	2	
2	ユーモア	講義	ユーモアが社会・心理的適応に及ぼす影響を理解する	3	
3	動機づけ	講義	動機づけが社会・心理的適応に及ぼす影響を理解する	3	
4	ストレス	講義	ストレスが社会・心理的適応に及ぼす影響を理解する	3	
5	楽観主義/悲観主義	講義	資料等に基づき、楽観主義/悲観主義を理解する	4	
6	感情コントロール	講義	資料に基づき、感情処理法を実践する	5	
7	対人関係とソーシャルスキル	講義	資料等に基づき、コミュニケーションスキルの向上を実践する	5	
8	レジリエンス	講義	資料に基づき、自身に合ったレジリエンスを見つける	5	
9	セルフ・コンパッション	講義	資料に基づき、セルフ・コンパッションを実践する	5	
10	ピアカウンセリング	講義	資料等に基づき、ピアカウンセリングを理解する	2	
11	非日常・非常時の対応	講義	資料等に基づき、非常時・非日常の対応を理解する	4	
12	疑問質問に答える/プレゼンテーションの話し合い	講義/ グループワーク	他の学生が抱いた疑問点を理解する。	2	
13	プログラム発表①	プレゼンテーション	当日までにグループでプログラム内容を協議し、作成する	6	
14	プログラム発表②	プレゼンテーション	当日までにグループでプログラム内容を協議し、作成する	6	
15	まとめとおさらい	講義	第1回～第12回までの資料を再読し、理解を深める	5	
試	定期試験				

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

		達成度評価					
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合力指標	知識・技術力	39	36	25	0	0	100
	思考・推論・創造する力	29	0	0	0	0	29
	思考・推論・創造する力	10	9	0	0	0	19
	協同性・リーダーシップ	0	0	5	0	0	5
	発表・表現伝達する力	0	9	5	0	0	14
	コミュニケーション力	0	0	5	0	0	5
取組みの姿勢・意欲	0	9	5	0	0	14	
問題を発見・解決する力	0	9	5	0	0	14	
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注視点					
試験	①	✓	学期末に実施する筆記試験にて評価する。39%を配点する。デジタル端末、資料、ノート等の持ち込みは不可とする。試験の傾向については、出題例を詳細に伝える。				解答用紙を返却すると共に、正解(例)を Microsoft Teams 上にアップする。
	②						
	③	✓					
	④						
	⑤	✓					
	⑥						
レポート	①	✓	授業毎の最後に約10分間の「小レポート」を実施する。各回3%を配点する。第13回、第14回、第15回には小レポートは実施しない(3×12回=36%)。提出方法は Microsoft Teams へのデジタル形式とする。よって本授業ではPC、スマートフォン、タブレット端末などの通信機能を備えたデジタル端末が必須である。				疑問質問等に対して、第12回にてまとめて回答する。
	②						
	③	✓					
	④						
	⑤	✓					
	⑥						
成果発表	①		第13回、第14回に実施するプレゼンテーションの内容によって評価する。プレゼンテーションはグループにて「健康と社会・心理的適応」に資するプログラムを発表する。配点は25%。グループ決定方法、プログラム内容の指針、プレゼンテーション方法、評価基準等については、別紙にて詳細に伝える。				各グループに対し、評価基準に沿った評価を書面にてフィードバックする。
	②	✓					
	③						
	④	✓					
	⑤						
	⑥	✓					
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他担当教員	なし						
教員の実務経験	臨床心理士として16年の臨床経験、山梨県スクールカウンセラー等として16年勤務						
実践的授業の内容	実際の床経験を踏まえた実践的な内容とする。						
その他	授業の資料は印刷して配布することではなく、Microsoft Teams 上にアップする(授業前に自身で印刷することは可)。上述の通り「小レポート」はデジタル形式での提出とする。よって本授業ではPC、スマートフォン、タブレット端末等のデジタル端末は必須である。疑問質問等もデジタル形式で受け付ける。2コマ連続のため、デジタル端末の充電は十分に行っておくことを推奨する。						